座談会

中国のトイレ革命について
－北京でのトイレ文化講座に招かれて－

高橋志保彦　日本トイレ協会　会長
小林純子　副会長
村上八千世　運営委員

2018年8月21日
TOTO汐留ビルにて

＜トイレ談義＞

座談会：高橋志保彦　日本トイレ協会　会長・・・・・・・中国国際公益学院 2017 年招聘者
　　小林　純子　　仝　　副会長・・・・・・・中国国際公益学院 2018 年招聘者
　　村上八千世　　仝　　運営委員・・・・・・・　　仝　　招聘者
立会者：木内　雄二　　仝　　運営委員

テーマ：中国のトイレ革命について　－北京でのトイレ文化講座に招かれて－

日時：2018 年 8 月 21 日（火）　場所：ＴＯＴＯ汐留ビル第 3 会議室

◆◇　北京訪問の印象　◇◆

高橋　本日はご多忙にも拘わらずお集まりいただき有難うございます。トイレ談義 2 回目です。
お二人は今回中国国際公益学院からの招聘ですが、私も去年 2017 年に招待されました。この学院は深圳に本部があり、北京にもあって、研究や研修、講習会とかいろいろ事業をしているのです。場所は宿泊するホリデイインの隣ですから大変便利ですね。
小林　ええ、中国で事業を起こすのは深圳市に特別制度があり容易らしいです。だから、国際公益学院も始めは深圳で始まり、今は深圳と北京で活動されているようです。
高橋　お二人は、中国訪問は何回目ですか？
村上　私は 4 回目です。北京 2 回と上海 2 回です。
高橋　結構行かれていますね。北京が首都で、上海は言ってみれば文化や商業の発展した開かれた町、大阪みたいなところですね。
村上　上海のほうが自由な印象がありますね。深圳も上海に似ていると聞いています。
小林　私も 4 度目。以前日本トイレ協会が招待されて返還前の香港での国際大会に出席しましたね。他に蘇州や杭州にも行きました。
高橋　香港で世界トイレ会議と環太平洋国際会議と 2 回ありましたね。私は中国には 10 回近く行っています。最初は 1980 年代の初めの頃で、その時は、早稲田の先生方と一緒にレクチャー旅行でした。重慶大学で都市デザインの講義をした後、揚子江三峡下りをして武漢へ。杭州では浙江大学で講義をして上海へ。その頃の中国には超高層ビルは一本もなかった。今は巨大な公共建築の立つ上海の中心部は当時広大な公園みたいに広々としていた。そして外国人相手の友誼商店がぽつんと立っていました。今は大規模な公共建築が立ち並ぶ文化的コアになっています。当時南京東路は普通の道でしたが、今は歩行者専用のモールになっています。

座談会の様子

とです。どこの誰に招聘されているのか。だから、思いを馳せれば、昔の人たちが、渡航した時にきっと彼らはこういう風に何が何だかわからない、この人信用していいのかどうかもわからない。そういう中にいたのではないか、って思いました。

高橋　話が通じないというのは辛いですね。よく分かります。

慶長年間に少年使節団が、そして伊達政宗の家臣の支倉常長がローマに行きましたが、見るもの聞くものみんな珍しかった。隊列を作ってローマ入城。しかしローマの人たちが何を言っているのかも分からなかった。面白い話があります。日本の侍がローマで鼻紙を捨てたらしい。ところが当時のローマの人たちは、紙はもの凄く貴重なもの。なんで日本人はこの貴重な紙を捨てるのだって不思議に思ったらしいです。鼻紙なんですがね。ところ変われば品変わる、それに彼らは紙で鼻をかみませんし。だから同じように、風習が違い、言葉が通じないため全貌が掴めないということがよくあると思います。

小林　そう、まさしくそうです。

高橋　言葉が通じてれば全体の流れがなんとなく分かる、けどこちらは何も分からないから、何をやってんだって思うわけですね。言語は情報の大切なツールです。もちろんヴィジュアルもあるけど、一般的に正確にとらえるのは言語だと思います。なぜここに呼ばれているのかよく分からないっていうのはそういうところに原因があるんじゃないでしょうか。

小林　日本で直接、招聘メールを受けた時も、これはトイレ協会からなのか、自分個人にか、それが分かりませんでした。また、そのメールを下さった中国の方にも現地でお会いしましたが、その人さえ事の詳細をご存知ありませんでした。また、通訳によっても伝わる内容が異なることも経験いたしました。

高橋　通訳は難しいですね。通訳の職業柄、こちらが話したらすぐ翻訳しないといけない。黙ってちゃいけないので必ず言わなきゃいけない。私たちには正確に訳されているのかどうか分からない。(笑)

今まであまり光があたってなかったけれども、講演会や国際交流の時はお互いの話を的確に伝えあうためには、通訳が非常に大事だということですね。

村上　そうですね。今回通訳の方は 2 人おられて、30 分交代くらいで、2 日間ずっと通訳してくださいました。雑談の時間も通訳してくださったので参加者との会話も比較的スムーズにできました。

小林　よく私なぞのために、こんな優れた人たちを、と思うくらいでした。

村上　通訳に加え、速記の担当の方もいて、セミナーのすべてを記録していました。

小林　優れている特に印象に残る点でお話したいですけど、それは電子マネー！あれにはびっくりしました。

高橋　ああ、電子マネーすごいですね。全部スマホで支払いですものね。これは凄い。日本も今導入しようとしていますけどね。中国の方が言ってましたけど、これは偽札防止にも効果があるそうです。

小林　特に中国が優れて印象に残る点をお話したいですけど、レンタル自転車、ピッとやると鍵があいてどこに乗り捨ててもいいの。とかね。

高橋　たいしたものですね。昨年街で見ましたが、リヤカー引っぱっている八百屋さんにでも、ピッですものね。

小林　そうそう。こういうところにね、リヤカーならリヤカーの脇にこう付いているの。あの、QR コードっていうんですか。それをこう、タッチすると OK なんです。

村上　街の中に自動販売機みたいな大きいボックスがあるのですが、それは自動図書館なのです。携帯電話から登録して本も簡単に借りたり返したりできるようです。

小林　日本にはない、進んでいるところと、まだなんかヨチヨチで身についていないような真似っこしているような感じがすることが、いろんな場面でいっぱいあって混在している。

村上　ハード的なことは、あっという間に発展して日本はもう追い越されているように思います。

り、ベビーシッターに頼んで世話をしてもらうのが一般的のようです。でもまた「二人っ子政策」が実施されたので保育園を望む声は増加しているようです。

小林　行ってわかったことですが、国際公益学院は調査研究するシンクタンクなのですよね。私は、ここは地域交流センターみたいな、田中栄治さんのところみたい、って思ったんですよ。あんまり深いかどうかはわからないのですけど、調査をされているからそういうのは割と慣れていらっしゃるんじゃないかと思って。

私のワークショップでは、例えば高校のトイレのプランがありました。50 個くらいの和便器が仕切りなしにずーっと並んでいて、前にバケツが一つおいてあるっていう、一つ一つ。

高橋　和便器じゃない、中国便器。(笑い)

小林　そう。胡同（フートン）の共同トイレプランがあり、その公衆トイレを。どうしますか？男女をどうやって分けますか？とか、分けた方がいいですか？とか、そんな課題を議論していました。

高橋　そのプラン見たいですねぇ。

小林　その写真は撮ってきたんですけど。そんな綺麗なものじゃない。

高橋　現実を知るためには写真が一番いいです。

小林　村上さん、あなたがそのグループだった？

村上　私が参加したワークショップは胡同（フートン）の公衆トイレのグループでした。

高橋　「胡同（フートン）」というのをご存知でしょうが、北京の一角には、結構広いんだけど、伝統的な居住地ですね。中庭を中心に建物が囲い型配置になった「四合院」がよくみられます。胡同（フートン）の元の意味はそれほど広くない道路のことです。今は結構観光者が見て歩くのですが、地元の人は中を覗かれるのを望まないですね。

中国はご存知のようにトイレがないから、みんなほらオマルを使っていた。それで外に捨てたわけですね。胡同（フートン）には公衆トイレがあって。そこへみんな行ってするわけです。以前私が訪れた 10 数年前は汚かったのですが、今はきれいになっているのでしょうね。

村上　故宮の近くの胡同（フートン）はもうすごく綺麗になっていて、公衆トイレもとても綺麗で、管理人の方が常駐していました。

高橋　そりゃあ、観光客がいっぱいいるからですね。トイレを変える発端のひとつには観光なんですね。これまで話に出てなかったけど習近平主席が「トイレ革命」を 3 年前の 2015 年に言いだした。これは衛生環境と生活空間改善がありますが、一つには観光もあるんです。

小林　そうですね。

参加者によるグループワークの様子

◆◇　中国での日本製トイレ　◇◆

高橋　中国も文化大国になるためにはトイレは大事。それはその通りで。もう一つは観光客を受け入れる観光資源のためには当然清潔なトイレは大切だと。これは世界共通だと思いますが、そういうことで号令を掛けたわけですね。共産党政府の習主席が号令を掛けるとみんな頑張ってやる。

高橋　TOTO はもう絶対にこれでないとだめだと思っても、他の国はちょっとくらい寸法が狂っていてもいいよっていう。国民性の違いもありますね。

木内　ですから、そういう国では TOTO の商品は売れない。

小林　なんか話がずれますね・・・私、日本に憧れているような気がします。

高橋　日本に憧れている？中国の人が？

小林　思いませんか？日本のモノに憧れているんですかね。質がいいって思っているのか。

高橋　品質が保証され騙されないってことです。信用ですね。

小林　ああ、信用しているんですね。

高橋　中国の方が日本で買いたいっていうのはみんなそうですね。むこうで買うと騙されたり、偽物つかまされたりするケースがある。日本はあんまり偽物作らない。これが一番大事なところです。時々私が不思議に思うのは、日本人、アメリカ人もそうだけど安いから「Made in CHINA」の製品をいっぱい輸入するじゃないですか。日本にある中国製を中国人が買って持って帰ったときにどう思うんだろうって。(笑)私は経験があるんです。20 数年前アメリカに学会で呼ばれて論文発表した時に、あるお店でコカ・コーラの瓶が卓上ラジオになっているのを見て、これ面白いって思って得意顔で買って帰ったけれど「Made in JAPAN」って書いてあった。(笑)

小林　今回中国に行って感じたことは、なにか日本が辿ってきた「真似っこ小僧」。日本では、今はもう誰もが、真似してないわって顔しているけど、でもやっぱり他の国の新しい技術を盗んだり、真似したりして今の日本がある。それにさらに日本らしさっていうか自分たちらしさを付け加えながら創造してきたんだと思います。最初から今のがあったわけではない。

高橋　物事はだいたい真似から始まりますよ。

小林　真似からですよね。

高橋　TOTO さんにしても創業者が欧州から学び、最近技術はアメリカからも学んだ。真似が悪いんじゃない。真似は学習でもある。赤ん坊の時から真似て育ちます。人間そのものが真似から始まって成長していくわけですね。国際的にもそれがあります。だから情報が大事になるのですけどね。そしてその真似した後どうなるかが問題です。こっちは 30 年掛かっているのを 3 年でできちゃう、っていうのが真似の良いところなのですね。私の関心事はそこから先です。今、中国は日本を追い抜こうとしている。追い越したら逆移入になるか・・・。

それは基礎科学の分野でも明白です。日本は文科省から科学研究費が大学にくる。そのお金がえらく少ないんです。中国は潤沢にくるから、基礎研究がもの凄く今盛んになっている。日本の基礎科学者が中国へ流出したりしている。そうすると今の話は逆転しちゃう。

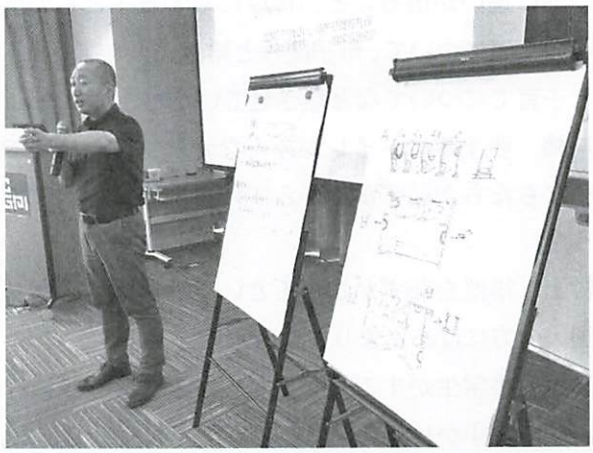
小林　そうだと思う。

高橋　基礎科学のある分野では中国の方が進んじゃっているという。

木内　やっぱりまだハングリー精神があるんじゃないかと思います。だから、やればやるほど後々身になる。

村上　中国の方はみんなすごく生き生きしていますよね。日本の高度成長期の時と同じような感覚ではないでしょうか。ビジネスに対する期待感や意気込みを強く感じます。

小林　オリンピック公園に仮設トイレありました。



グループワークの成果を発表

オープンにするのを勧めているのは 3 歳未満の子どもが使うトイレです。3 歳以上の子どもが使うトイレはブースで囲まれているものを提案しています。そして 3 歳未満のトイレをオープンにした方が良いと思うのは羞恥心を植え付けないようにするためではなく、その方が子どもにとってトイレにアクセスしやすく、その結果主体的に排泄することに向き合え自律がスムーズに行くからです。

一方で、中国では間仕切りが無い大人用のトイレがまだたくさんあることが大きな問題になっていて、トイレに間仕切りをつけて個室化することがトイレ改革の大きなポイントにもなっているようです。しかし、大人用と幼児用を同様に考えるのはどうかと思います。その後のワークショップでは既存の幼稚園トイレのプランに対して、改善案を考えるという課題がありました。既存のプランは男女兼用で間仕切りがないのですが、中国の参加者はすぐに「男女を分けて、間仕切りを付けよう」という話になるんです。大人用のトイレも幼児用のトイレも画一的に考えてしまうところに危うさを感じました。日本もほとんどの保育園・幼稚園トイレは男女兼用で、それを分けなくてはならないという議論はあまり出ていないと伝えると、子ども用トイレも子どもの時期から男女分けなきゃいけないんじゃないかっていうような話の流れになるのです。

おもしろいのは、そんなふうに男女を厳格に分けようとする考えの中で、主催者の入っているオフィスビルはすごくモダンなデザインでしつらえてあるんですけど、そこのトイレは男女共用なんですよ。それはその過去の男女共用を引きづっているんじゃなくてヨーロッパやアメリカで最先端をいっている男女共用。おしゃれな感覚の男女共用です。

高橋　それは LGBT まで考えている？

村上　性差をノーマライズしようとするところまではいっていないように思うのですが、「新しいもの」をいち早く取り入れようという勢いは感じました。

小林　女性専用もあったわね。あのオフィスに。

村上　でも女性のスタッフに聞いたらね、やっぱり男女分かれている方がいいって若い女性は言っていました。都市部の若い世代は男女が分かれているトイレにもう慣れているのでしょうね。ガラス張りのパーティションで凄くお洒落で、アメニティグッズがちゃんと揃えてありました。

小林　国際公益学院の人々は、みんな留学経験があるハイソな人たちでした。ワークショップ参加者は知りませんが。

高橋　きっと皆さんリーダーになる人ですね。国際公益学院は、お金はいろんな財団やお金持ちから集めているんです。ビル・ゲイツなんかも寄付しています。お金は潤沢にあるんですね。

それで今の子どもの教育に関してむこうが一番あなたの話に「それは凄いっ」とか「目から鱗」というか、「これはためになった」っていうそういう印象を持たれた点はどの辺なんですか？

村上　あったかなー。（笑）

小林　いやいや。そんなこと考えたことなかったってみんな言ってたじゃない。

私がすごく気になって面白いなーって思ったのは、中国の股が割れているパンツ。

村上　「股割れパンツ」は子ども用のパンツです。ちょっと前までは中国の都市部でもよく使われていました。パンツに割れ目が入っていてお尻が丸出しなんですね。それで用を足したくなったらその辺にひゅっとしゃがんでジャっとやったら、衣服を下げたりしなくても、簡単にできちゃうのです。冬なんかすごい厚着するじゃないですか、それを全部脱がせる必要が無いのは親も楽ですし、子ども自身もやりたくなったらさっとしゃがめばいいので便利ですよね。でも都市部ではそういうのはもうはかせなくなってきて、やっぱり「局部が見えるので良くない」という親が増えてきて使わなくなっているようです。だから股割れパンツの代わりにおむつをすることになり日本製のおむつが大人気なんだそうです。日本に来たらおむつを爆買いして帰るそうです。

日本ではおむつは高性能で優れているんだけど、高性能がゆえにおむつが取れる時期が遅くなってしま

高橋　メンテの話は？

小林　メンテの話もしました。メンテにはすごく関心をもっていらっしゃいます。

高橋　こないだ西安で国際会議があったとき、私が紹介して、トイレを磨きやメンテ専門の星野さんが呼ばれました。メンテについては相当これから重要視すると思いますね。

村上　実際、公衆トイレのメンテも進んでいました。オリンピック公園の公衆トイレでは基本的に管理人が常駐していて清掃は行き届いています。少しニオイがあるトイレもありましたが清掃方法の問題ですぐに改善できることだと思いました。床の材質も大判タイルが貼られていて清掃性も良くなっています。清掃後は拭き上げた後にドライヤーで乾かすということまでできていました。

木内　職業としてやっている人？

村上　そうです。

木内　例えば日本だと、パブリックになるとボランティアというのもあるじゃないですか。

村上　制服で清掃をしていたのでボランティアではないと思います。それはもう綺麗ですよ、全く臭いがないところも多かったです。中国の昔のトイレが短期間でここまで綺麗になるとは驚きです。日本のトイレも綺麗ですが、いまだに臭いトイレはたくさんありますから。

木内　それはやっぱり清掃でしょうね。例えば紙を一緒に流さないからかなっていう。

村上　紙は便器に流さずに容器の中に捨てるようになっていました。

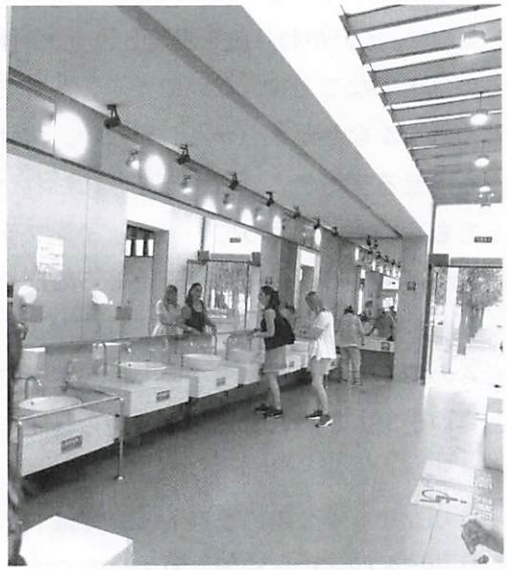
高橋　臭うじゃないですか。臭わないっていうけど紙は捨てたら臭うんじゃないですか。

村上　いや臭わなかったですよ。こまめに回収しているのかもしれません。

小林　なにはともあれ、日本の30年前を始点として、いろいろなトイレが綺麗になっていった、あの時代とそう変わらないと思うんです。でも絶対的に違うのはインフラ整備。

高橋　そうです。おっしゃる通りです。

オリンピック公園の公衆トイレ



オリンピック公園　公衆トイレ
女子用洗面コーナー

小林　やっぱり配管の管径がすごく小さいらしい、だから詰まるので紙も流せない。別にしなきゃならない。国際公益学院のコウさんという女性が悔しそうに言っていました。あの方はアメリカと日本にも留学したことがあるらしいので、日本と中国の大きな違いを体感されており、なんで紙が流せないのかと一般利用者として聞かれました。インフラが違うと伝えました。

高橋　その話で、インフラと一言おっしゃったことですが、管径と勾配と下水処理場なのですね。下水処理場がなかったら絶対に水洗はうまくいかない。紙も流せない、そうするとどのくらいインフラがすすんでいるか、処理ができるか。馬兆さんにも前から質

たのが、中国では 3 年でやっちゃうだろうと思います。そういう風になってくると恐らくもう国際的にみんな似てくるのではないかと思うのです。ということは向こうも高齢社会になりますから日本以上に、一人っ子政策、今二人っ子にしたけども、だんだんとお年寄りが増えていく、なかなか病気になっても治るから死なない、そういうふうに高齢化になってそれを養う勤労者人口の割合が日本以上に少なくなって、大変な問題になるかもしれません。トイレも腰掛式になっていくのだろうとおもいます。でも田舎の方に行くとまだまだね、バリアフリーの街の環境はあまり見当たらない。ですから、いま中国を考えたときに、文化文明の発達した地域と、そうでない言葉は悪いけれど旧態依然、昔ながらの環境そのままのエリアと両方あると思います。そちらの方をどうするかが、恐らく中国のこれからの問題でしょう。銭軍さんはチベットなんかも行って研究しています。チベットは西の一番はずれです。トイレ環境は劣悪みたいです。中国も相当、場所によって違いがあるので、この辺は中国人自身が考えていかなければいけないことでしょう。

小林　よく言ってましたよ。いまからは農村社会のトイレである、それが一番大きな問題であると。

高橋　農村は全くインフラがないから、そのインフラがないときにどうするかっていうのを日本はノウハウを知らないです。もはや。昔のやり方は肥溜めに入れてしばらくしたら使えばいい、無害だと。でも中国はどうやっているのかまったく分からない。本当に大事なことは中国の奥の方です。

村上　中国の農村部の中には各国の ODA などの支援を受けているところもあるのではないでしょうか。たとえばスウェーデンの建築家の Uno Winblad 氏は中国の住宅で下水道に頼らない汚水処理方法を提案していました。今回セミナーに参加していた方々はそういった分野の専門家ではありませんでしたから、そのあたりの話題は出ませんでしたが。

高橋　銭軍さんが所長をしている昆山にあるトイレ博物館に行くと、いろいろなトイレがあります。そこにあの小と大を、し尿を分ける、Uno さんが言っていた便器がありました。前にも運営委員会で話したけど、おしっこの方はリンがあるからそれを畑に撒く、病原菌は無いということです。Uno さんが言うのは大便の方も酵素を吹きかけることによって土になるっていうのだけど、一番怖いのは細菌、病原菌です。小便の方はそれが無いということで発表した人もいました。それを林檎園に撒いたらリンが入っているから林檎が美味しかったっていう、洒落みたいな話。ですから、農村独特の中国式のトイレ、し尿処理、これが恐らくこれからは話題になると思う。

グループワークの発表者

木内　多分貧富の差がまだ大きく農村部まではなかなかいかないと思うんですよね。

高橋　私の関心事は、あの広大な国土の中で、インフラがどれくらい進むかなんです。いくら金持ち大国になったとしてもあんな広い国土、どうやってインフラ整備するのだろうと、ここが一番問題だと思います。

木内　日本でもそうなのですけど、個人的な意見ですが浄化槽は絶対になくならないでしょう。何故かというと、一戸のために下水道を通すなんてそんな費用はない。じゃあ浄化槽をただで設置してあげた方が、国とか地方自治体は絶対に得な筈です。ですから基本的に浄化槽はなくならないと思います。

高橋　そうですね。

木内　ただ内陸部なると、日本と違って山からおりてくる川がなかなか海に到達しない。日本は海に囲

から何か指導されていることはありますか」と聞かれました。それで「国が直接指導することはないです。各家庭で親が子どもに躾けるか、幼児なら幼児教育施設の保育者が、児童や生徒なら学校の教師が指導する場合もあるがそれはその施設に任されている」と答えましたがあまりピンときていないようでした。

高橋　やっぱりそう聞かれましたか。

村上　「国はなにも言わないのか？」と何度も聞かれました。民主主義や地方分権との違いを感じた瞬間でした。

高橋　それは号令を受けることに慣れているというか。

村上　それはすごく感じましたね。「国」がどういうふうに指導すれば国民のトイレの使い方が良くなるのかということを知りたがっているんだと感じました。

同じようなことで、ワークショップで胡同（フートン）のトイレの利用マナーをよくするために話し合っているときも、利用者がマナーを守るようにするには胡同（フートン）の管理者（長？）が厳しく取り締まればよいというような意見が出て、上意下達の文化を感じました。

高橋　その方が安心なのでしょうかね。

木内　日本の場合は「汚すな」っていうのは家庭で小さい頃から。お母さんの掃除が大変だから「汚すな」という。男が汚す。だから父親はぜったい怒らない。

高橋　3歳児までにお母さんが教えてあげる。

◆◇　「ネットワーク」で協力！　◇◆

高橋　神奈川大学での現役時代に中国湖北省の民家の研究をしていて、大学院生を連れて揚子江の近くの集落に調査に行きました。両側が煉瓦壁で間口が5-6m、奥行きが大きい。そのため風通しを良くするよう中庭をつくっています。この空間を天井と書いてテンチェンと言います。これは古代ローマのアトリウム（中庭）と同じです。

小林　京都みたい。

高橋　そう、同じです。ただ京都の町家は中庭として作庭しています。中国の中庭は作業スペースです。また京町家は木造だけど彼らはレンガ。で、あのローマ時代もレンガとか石造でアトリウム（中庭）を作った。全く構図は一緒です。通風や採光のために中庭がある。奥に裏庭があってそこにトイレがある。外なんです。だから夜はみんな馬桶（マートン）を使う。トイレはいわゆる「厠」で粗末な小屋。溜まれば柄杓でくみ出す。馬桶（マートン）の中のものは近くの川に捨てる。川はあまりきれいではなかった。

ところで、中国の方々にどのように協力できるかをこれから考えないといけないですね。環境や習慣、思想的政治的体制を重んじながら互恵していかないといけないと思います。私が、ずーっと言ってるのは、ネットワークでいこうと。世界トイレ協会はダメ。World Toilet Organizationも参加できない。お互いに対等なInternational Toilet Networkです。みんなそれぞれの国の事情が違うんだし、考え方も違うんだから、情報交換をして、人々の暮らしの向上と地球環境を良くしようというのが私のいつもの言っていることです。これからそういう意味で中国の方と付き合うときに、中国人はどういう人かっていうのをよく知っておかなければならないと思います。自尊心が強いです。関係性を重視する人たちです。だから最初に会って胸襟を開くことが大事です。そしてギブアンドテイク。会って友達同士になるっていうことが大事だと思っています。

小林　そうですね。

高橋　「あなた方は日本からやって来ていいことをされた」と思っている。それに中国人も日本人も人情がある。微妙に違うんだけど情があるわけですね。付き合うと個人的にはみんな良い人ですよ。しかし国の制度とか組織になると日本とは違うので難しいですね。

に何がなきゃいけないとかが、分からない。だから見本作ってもらいたい。その方が早い。

小林　日本のトイレは、綺麗になった綺麗になったっていわれます。やっぱりここ30年でなにが変わったかって、やっぱり洋風化が大きい要素です。それがメンテナンスに大きく貢献している。耐久性やメンテナンス性のある建材や機器、加工品の開発、適材適所の建材の選択等。細かいとこでいっぱいやってきたと思うんです。

木内　段階を踏んでいて、その中でやはり重要なのがメンテナンス。最初は凄く豪華な公衆トイレを作るんですよね、お金掛けて。だけどその後はお金を掛けないでいるから、どんどん汚くなって、使われなくなってくる例があります。また自分らのためにボランティアが維持している例もある。最近は観光客。いま「町おこし」というのがあって、そういうのを含めて日本国内の観光客、外国からの観光客に来てもらうためには綺麗にしなきゃならない。いろんなことが重なって徐々に段階を踏んでいまになってきている。

小林　そうでしょうね。さまざまな人たちがその方法に向かって、自分の与えられた仕事の中で探しながら、上の方をみながらやってきて、ずーっと向上してきていますね。 どういう風に日本の進化の段階を、メーカーのTOTOが作為的に仕向けてきたっていうのもありますよね。

高橋　作為的？　ありますよ。そりゃあ戦略ですから、もう当然売れるように。売れるっていうのは人々が何を望んでいるのか、ニーズとシーズ。

「お尻も洗って欲しい」だから、当然でしょうね。それから、TOTOさんとしては言えないっていうことですが、私は実行したくてしょうがないのが痔の調査。痔が本当に治ったかどうか。これはね、医者が研究すべきことでほんとに怠慢だと思います。

◆◇中国でもトイレの話題は盛上がる◇◆

高橋　最後に一般論でどうぞ、まとめをしましょう。

木内　僕最後に聞きたかったのは、25人の方が何に興味をもったか？

先生の分野でのお話しの中で、どこに興味を示したのか。ただ、「ああそうですね」と納得している雰囲気だったのか、それともなんか言ったら「これはどうなんですか？」みたいなあるじゃないですか。

小林　どこに一番興味を持ったのかは分かりませんけど。西洋化してしまった日本のトイレの自分が設計した姿をお見せしたわけだから、「ああこんなにきれいになるんだな」って思った。そういう目はしていました。それだけですかね。

木内　それを中国で実現したいって思っているのでしょうか？

小林　ええ、思っているとおもいます。

ただ、それを別の視点で、この方向だけがいいのだろうか、みたいな別の視点を持つゆとりがないっていうか、そういう思考をしていないような気がするんですけど。

村上　今回のセミナーは参加者の分野も様々で、テーマも非常に広かったと思います。我々は日本の先進的なトイレのプランニングの事例について話しましたが、中国の講師の方はインフラが整備されていない地域での排泄物による感染症の広がり方や衛生の保ち方など公衆衛生の話をなさっていました。ハエが排泄物にたかってそれが食べ物について感染症がおこるという話もあれば、公衆トイレの先端的な話や、インフラの話、胡同（フートン）のトイレや、日本の先端的な幼児用のトイレの話などテーマが広すぎて戸惑ってしまいましたが、とんでもなく多様な問題を解決していかなくてはいけないということが中国という大国が抱えている問題なのだと思います。2日間という時間では一つ一つを突っ込んで議論するのはとても不可能でしたが、中国では「トイレ」がとてつもなく巨大なビジネスチャンスになっていることも強く感じました。

<プロフィール>

● 高橋 志保彦（たかはししおひこ）

建築家、都市デザイナー／神奈川大学名誉教授、（一社）日本トイレ協会会長

昭和 11 年　新潟県生、仙台市出身

昭和 34 年　早稲田大学理工学部建築学科卒

昭和 40 年　ハーバード大学大学院デザイン学部建築学専攻修了

竹中工務店、TAC 設計事務所.(USA)、セルト・ジャクソン設計事務所.(USA)勤務後、昭和 50 年事務所設立

昭和 63 年　神奈川大学工学部教授、現在名誉教授

［受賞］　横浜文化賞 、稲門建築会特別功労賞、都市環境デザイン会議パブリックデザイン賞大賞他

［著書］　「都市環境のデザイン」「ショッピングプロムナード」「ショッピングモールの設計計画」

「都市デザインの理論と実践―高橋志保彦の仕事」「都市環境の論理（共訳）」

「トイレ学大事典（編著）」他

［作品］　馬車道、開港広場、富山ブールバール、清水ＰＡお手洗い等、　建築と都市デザイン（住宅、会館、工場、モール、広場、公園）の作品多数

● 小林　純子　（こばやし　じゅんこ）

建築家／（一社）日本トイレ協会副会長

昭和 42 年　日本女子大学家政学部住居学科卒業

平成元年　一級建築士事務所 ゴンドラを設立

平成 20 年　エイボン賞女性大賞受賞

平成 26 年　東洋大学にて工学博士号取得（公共トイレ改善の取組の評価と実現方策に関する研究）

［著書］　「トイレが変わる」（共著）保育社、「変わる学校のトイレ」草土文化

「心に響く空間―深呼吸するトイレ」弘文堂

［作品］　成田空港第２ターミナル客用トイレ、小田急電鉄新宿西口トイレ、博多アミュ客用トイレ等

● 村上　八千世　（むらかみ　やちよ）

常磐短期大学幼児教育保育学科准教授、アクトウェア研究所主宰、

（一社）日本トイレ協会運営委員

平成 02 年　坂本菜子氏に師事

平成 10 年　独立しアクトウェア研究所設立、幼児用トイレの設計・アドバイスを始め、

現在は保育施設全般の設計アドバイスを行っている

平成 16 年　早稲田大学大学院修士課程修了、専門は発達心理学、幼児の排泄行動等について研究を続ける

平成 23 年より教職につき、非常勤を経て 2019 年より現職

［受賞］　第 1 回キッズデザイン賞建築・空間デザイン部門大賞、第 1 回こども環境学会デザイン賞等

［著書］　「保育園は子どもの宇宙だ！トイレが変われば保育も変わる」（共著）北大路書房、

「うんこのえほん　うんぴ・うんにょ・うんち・うんご」ほるぷ出版等

［作品］　おおわだ保育園 0～5 歳用トイレ、浦和ひなどり保育園幼児用トイレなど